

ご興味のあるセミナーがございましたら、
該当のページをコピーして、関係部署で
ご回覧ください。

ソフトウェア開発現場の
トラブルを減らしたい！

ソフトウェアの品質保証を
組織的に確立したい！

ソフトウェアレビュー、
テストを効果的に行いたい！

JUSE SEMINAR GUIDE 2015

トラブルの真因を追究し、
再発防止・未然防止を
実現したい！

ソフトウェア品質



一般財団法人 日本科学技術連盟
教育推進部 第二課

QR コードで SQiP ポータルサイトにアクセス！



<http://www.juse-sqip.jp>

セミナー受講ガイド

★PMP®向けのPDU発給について

日本科学技術連盟は、PMI®認定教育プロバイダー(R.E.P.)であり、「2015年度SQiPセミナー、研究会、シンポジウム」は、PMP®向けのPDU発給対象として申請中です。

		主な対象職種*			
		ソフトウェア 開発エンジニア	ソフトウェア 品質エンジニア	ソフトウェア プロセスエンジニア	ソフトウェア プロジェクトマネージャー
レベル	上級	実践！ソフトウェア品質向上のための原因分析セミナー (p.8) SQIP原因分析			
		実践！プロジェクトマネジメントセミナー (p.5) SQIPPM			
	中級	ソフトウェア品質向上のためのなぜなぜ分析活用事例フォローアップセミナー (p.7) SQIPなぜなぜフォロー			
		今日明日の実業務で使用する、ソフトウェア品質向上のためのなぜなぜ分析セミナー (p.6) SQIPなぜなぜ			
		実践！管理者のためのソフトウェア品質マネジメントセミナー (p.4) SQIPMC			
		ソフトウェアプロセス改善手法“SaPID”による自律改善実践セミナー (p.9) SQIP自律改善			
		ISO/IEC/IEEE 29119シリーズに基づいたソフトウェアテスト実践セミナー (p.18) SQIPテストプロセス			
		実践！ソフトウェア品質向上のための技術者セミナー (p.3) SQIPEC			
		XDDPの導入、活用による開発プロセスの改善セミナー (p.13) XDDP実践			
		実践！ソフトウェア品質保証のためのメトリクス活用セミナー (p.11) SQIPメトリクス活用			
		データ指向のソフトウェア品質マネジメントセミナー【技法編】 (p.10) SQIPメトリクス技法			
		初級	ソフトウェア品質部門のためのXDDP入門コース (p.12) XDDP入門		
	JSTQB認定 ソフトウェアテスト技術者—Foundation Levelトレーニングコース (p.16) JSTQB-FL公認				
	2日でマスターするソフトウェアテストセミナー (p.15) ST				
	データ指向のソフトウェア品質マネジメントセミナー【基礎編】 (p.10) SQIPメトリクス基礎				
	現場で効果をあげる「ソフトウェア品質会計」の適用方法(初級) (p.14) SQIP品質会計				
JCSQE資格対応 ソフトウェア品質技術者初級セミナー (p.2) SQIP初級					
		基礎から学ぶソフトウェア品質マネジメントセミナー (p.1) SQIP入			

※「主な職種」は、これ以外の職種の受講を妨げるものではありません。

※次ページ以降の「参加費」はすべて消費税込の価格です。

※掲載内容は2015年1月1日現在のものです。

※日程、カリキュラム、会場等は、諸事情により変更する場合があります。

※万一、最低開催人数に満たない場合は、セミナーを中止または延期することがあります。

※最新情報はSQiPポータルサイトからご覧ください。 <http://www.juse-sqip.jp/>

(略称)
SQiP入

基礎から学ぶ ソフトウェア品質マネジメントセミナー

PDU対象
コース
6.5PDU
※表紙2★参照

当セミナーは、ソフトウェア品質マネジメントについて、「言葉の定義の理解」、「基本的な考え方」、「現実的なマネジメント方法」といった基礎的なノウハウをわかりやすく学ぶことができます。ソフトウェア品質向上に役立つ教育も体系的に紹介しますので、教育派遣担当者の方にも参加をおすすめいたします。

コースの特色

- ソフトウェア品質マネジメントの基礎を理解できます。
- 国際標準（ISO、PMBOK™など）を含め、最新の動向を知ることができます。
- 情報サービス業界各社で実際に使用されているプロセスを通して品質管理のノウハウを学ぶことができます。
- 大阪・名古屋会場は、オンラインライブ中継で実施します。双方向でのコミュニケーションを実現しており、ライブ会場の受講者と講師との直接のやりとりが可能です。*最小催行人数：各会場6名

こんな方におすすめします

- あらゆる分野でソフトウェアの開発・生産に従事している技術者・管理者の方
- これからソフトウェア品質マネジメントに携わる方、もう一度基礎から品質マネジメントを習得したい方
- 教育派遣担当者の方

参加者の声

- テキストの説明と同時に他社事例の説明などもあったので、項目ごとに理解することができて良かったと思う。
- ベンダー側の品質管理に対する意識や管理方法について理解することができた。
- ソフトウェアの品質もハードウェアの品質も基本は同じであることが理解できた。

カリキュラム

1日

時間	科目	主要内容
9:30~17:00	1. ソフトウェアの品質管理	1.1 ソフトウェアの品質とは 1.2 ソフトウェアエンジニアリング 1.3 ソフトウェア品質保証の変遷 1.4 国際規格・フレームワーク 1.5 ソフトウェア・プロセス（開発方法論）
	2. 品質管理の始め	2.1 品質概念の進化 2.2 品質管理の基本的考え方 2.3 品質指標・生産性指標
	ソフトウェア品質向上に役立つ教育のご案内	
	3. 品質保証活動の基本的考え方	3.1 品質保証体系 3.2 レビューの実施方法 3.3 クレーム管理と再発防止

回数	開催日	開催地
1	2015年 5月21日 (木)	東京 大阪 名古屋
2	9月 2日 (水)	東京 大阪 名古屋
3	2016年 2月 2日 (火)	東京 大阪 名古屋

- 会場** 東京：日科技連・東高円寺ビル
大阪：TAC梅田校（オンラインライブ中継）
名古屋：TAC名古屋校（オンラインライブ中継）
- 講師** 河合 清博（情報サービス産業協会）
香村 求（株式会社システムSWAT）
- 参加費** 5,400円（一般/会員）

※各回、大阪・名古屋会場はオンラインライブ中継方法により開催します。

～本セミナーオリジナル「ソフトウェア品質改善の演習」で
教育効果が倍増！～

(略称)
SQiP初級

ソフトウェア 品質技術者初級セミナー

～「ソフトウェア品質技術者資格認定制度 (JCSQE)」対応～

JCSQE
JUSE Certified Software
Quality Engineer

PDU対象
コース
14PDU
※表紙2★参照

当セミナーでは、『ソフトウェア品質知識体系ガイド (SQuBOK Guide)』(p.21参照)に基づいたソフトウェア品質技術を体系的に、短時間で効率的に解説します。また、「レビュー技法→テスト技法→メトリクス・品質分析→再発防止」の一連の流れでグループ演習をし、品質改善の実践力を養います。

コースの特色

- ソフトウェア品質技術を体系的に、短時間で効率的に学べます。
- 「欠陥除去と作り込み防止」に重点を置いて解説します。
- 各科目とも、講義のあとに続いて、現場に即した演習を行います。

こんな方におすすめします

- ソフトウェア品質に関するすべての技術者
- プロジェクトの一員として開発業務や品質管理業務などを担当したことがある方
- 技術者・管理者・品質保証担当として次のステップを目指す方

※「ソフトウェア品質知識体系ガイドーSQuBOKGuideー」を、少なくとも1回は読んだことがある程度の知識があると、より教育効果が高まります。

※「ソフトウェア品質技術者資格試験 (JCSQE) とは

2008年12月に設けられたソフトウェア品質技術者資格制度 (JUSE Certified Software Quality Engineer) は、「すべてのソフトウェア技術者に品質技術を！」をコンセプトに初級、中級、上級の3段階の資格で構成しています。初級資格試験は、今まで13回実施しており、受験者数は延べ約4200名、合格者は1600名を超えました。

※詳細は19ページをご参照ください。

参加者の声

- これまで現場で行っていたバグの原因分析は“悪い例”であり、本質的な原因分析の必要性を実感することができ、非常に有益であった。
- 講義→演習という流れが、理解を深めるためには一番効率の良い方法であると実感、実りある時間を過ごすことができた。

カリキュラム

2日間

	時間	科目	主要内容
1 日目	9:30~10:45	ソフトウェア品質マネジメント概論	品質の重要性、品質の考え方、品質のマネジメント
	10:55~14:35	レビュー技法 (演習含む)	観点別レビュー、チェックリスト、インスペクション、レビューでの指摘事項、レビューのマネジメント、グループ演習
	14:45~17:25	テスト技法 (演習含む)	テストとは、テストケース設計、主要なテスト技法、テスト技法の選択と組み合わせ、テストケース作成の演習
2 日目	9:30~12:10	メトリクス、品質分析・評価 (演習含む)	定量的管理の意義、プロダクト・プロセスメトリクス、テスト進捗管理、グループ演習 (テスト管理図の見方)
	13:10~15:50	再発防止 (演習含む)	バグ原因分析、再発防止、グループ演習 (原因分析)
	16:00~17:30	ステップアップのために 質疑応答、まとめ	セミナーの振り返り、ステップアップに向けて

回数	日程
1	2015年 5月25日(月)~26日(火)
2	7月22日(水)~23日(木)
3	10月 1日(木)~ 2日(金)
4	2016年 2月 3日(水)~ 4日(木)

会
講

場
師

日科技連・東高円寺ビル

小笠原秀人 (株東芝)

小池 利和 (ヤマハ株)

香村 求 (株システムSWAT)

辰巳 敬三 (富士通株)

野中 誠 (東洋大学)

長谷川 聡 (北都システム株)

原 佑貴子 (日本アイ・ピー・エム株)

堀田 文明 (有テバッグ工学研究所)

菅田 直美 (日本電気株)

真野 俊樹 (SQA総合研究所)

湯本 剛 (日本ヒューレット・パカード株)

をはじめ、ソフトウェア品質に関して経験豊富な実務家・専門家が指導にあたります。

参加費

72,360円 (一般) / 64,800円 (会員)

本コースの「e-ラーニング版」(12PDU)も販売しています。(1ユーザー:21,600円)
詳しくはwebで
<http://www.juse.or.jp/software/398/>

～ソフトウェア品質技術を確実に身につけたい方におすすめ！～

(略称)
SQiPEC

実践!ソフトウェア品質向上のための 技術者セミナー

PDU対象
コース
39PDU
※表紙2★参照

演習を中心とした参加型のセミナーです。ソフトウェアを開発するうえで、ソフトウェア開発技術、プロジェクト管理技術、品質管理技術など、様々な技術が必要となります。また、ソフトウェア開発における、QCD (Quality : 品質、Cost : コスト、Delivery : 納期) を維持し、改善するために、プロジェクトや組織単位で、継続的に改善活動を実施することも大切です。

当セミナーでは、ソフトウェアを開発するうえで必要となる基本的な開発技術や管理技術を、演習やディスカッションを交えながら体系的、実践的に習得できます。

コースの特色

- ソフトウェア開発技術や品質マネジメント技術の基本的な考え方、手法の本質的意義、技術者に求められるマインドなど、ソフトウェア品質の“哲学”を学ぶことができます。
- ソフトウェア品質管理／品質保証の考え方および品質改善の方法を学べます。
- 要求開発から検査までの各工程におけるソフトウェア開発技術について学び、演習によりそれらの具体的な活用方法を習得できます。
- 理論だけでなく、実践的事例を盛り込んだテキストを使用します。
- グループ演習では、他の受講者とのコミュニケーションによる「新たな気づき」を得られます。

こんな方におすすめします

- あらゆる分野でのソフトウェアの開発・生産に従事している技術者、プロジェクトリーダー、SEの方
- ソフトウェア設計・開発をひととおり経験し、今後、さらに高いレベルを目指す方

参加者の声

- 不具合を上流工程でつづすことがコスト削減のための近道だということを学んだ。
- 品質保証の担当でも、補講というフォローがあり設計開発について大変理解しやすかった。

カリキュラム

6日間

	時間	科目	主要内容
前期	1日目	ソフトウェアの品質保証の基本	ソフトウェアの品質と品質保証、ソフトウェア開発プロセス、ソフトウェア品質保証活動の実践、プロジェクト管理の考え方・原則・手順、実践的なプロジェクト管理のポイント
	2日目	レビュー技法	レビュー技法の概要、インスペクション技法の概要、レビューでの指摘項目、レビューのマネジメント・定量的な分析手法
	3日目	ソフトウェア要求	要求定義とシステム開発 (要求の種類、機能の獲得他) 要求定義とヒューマン・コミュニケーション (コミュニケーション・プロトコル、伝わるドキュメント) 要求定義とモデリング (モデルの対象、モデルの要求他)
後期	1日目	品質を追求した設計	設計の基本、設計の原則 (オブジェクト指向設計)、モデルレビュー手法、テスト駆動開発
	2日目	品質向上のためのソフトウェアテスト	テストの役割と全体像、テスト技術、テスト計画、テスト結果分析・報告
	3日目	開発プロセスの改善	問題意識、プロセス改善活動の進め方、計測と分析

回数	開催日
1	前期 10月19日(月)～21日(水)
	後期 11月24日(火)～26日(木)

会場 日科技連・東高円寺ビル
 講師 板倉 稔 (イネーブルツリー(株) 顧問)
 小池 利和 (ヤマハ(株) デジタル楽器事業部 品質保証部 品質管理G 担当課長)
 奈良 隆正 (NARAコンサルティング 代表)
 野中 誠 (東洋大学 経営学部 教授)
 小井土 亨 (株)OSK R&D本部 スペシャリスト)
 湯本 剛 (日本ヒューレット・パカード(株) シニアコンサルタント)
 小笠原 秀人 (株)東芝 ソフトウェア技術センター 主査)
 参加費 135,000円 (一般) / 118,800円 (会員)

オプション (追加費用不要)

オブジェクト指向設計に不慣れな方を主な対象に「補講」を実施する予定です。設計の基礎知識を、より詳しく習得できます。

～一流のマネジメントスキルを学ぶ！～

(略称)
SQiPMC

実践！管理者のためのソフトウェア品質 マネジメントセミナー

PDU対象
コース
13PDU
※表紙2★参照

品質は経営において2つの意味で重要です。

- ①経営の目的は製品・サービスを通じた顧客価値提供にあり、品質はその提供価値に対する顧客の評価であること。
- ②品質のためのマネジメントの思想と方法論は、一般的な目的達成のために広く通用する優れた方法論であること。

当セミナーでは、短期間で管理者として必要なソフトウェアの品質マネジメントの基本的考え方や、プロジェクトマネジメントの進め方について学ぶことができます。

コースの特色

- ソフトウェア分野における“顧客価値提供マネジメント”の基本的考え方と方法論を学ぶことができます。
- 管理者として必須の、プロジェクトマネジメントについて、その役割や進め方を理解することができます。
- 管理者が持つべき基本的なマネジメント能力を、問題解決法の考察を通して習得します。

こんな方におすすめします

- 各分野においてソフトウェア開発に従事している部門の管理者（部課長クラス）およびプロジェクトリーダー

参加者の声

- ソフトウェア分野における品質マネジメントの意味、意義、全貌を理解することができた。品質というより、マネジメント一般の非常に質の高い整理された講義を聴くことができた。
- プロジェクトマネジメントの全貌と勘所が分かった。もっと詳しく勉強してみようと思う。とくにWBS、リスク対応は重要であると思った。
- マネジメント力とは、実は問題解決力と言ってよいのではないかと思った。問題解決力があるということは良い計画を作ることができることにほかならないことを実感した。

カリキュラム

2日間

	時間	科目	主要内容
1日目	9:30~12:30	ソフトウェアの品質マネジメント	ソフトウェア開発の難しさ ソフトウェアへのTQMの適用 TQMに学ぶ品質中心思想 TQMに学ぶソフトウェア開発プロセス管理 TQMに学ぶ全員参加の改善 競争優位のためのソフトウェアTQM
	13:30~17:00	管理者としてのプロジェクトマネジメントの進め方	プロジェクト管理の考え方、原則、手順 実践的なプロジェクト管理のポイント 見積と契約 デザインレビュー ソフトウェアメトリクス リスクマネジメントとコンテンジェンシープラン ソフトウェア要員の教育
2日目	9:00~16:30	管理者としての問題発見力向上 一流の管理者になるために必須のマネジメント能力	問題の種類 事例研究 問題発見の方法 発生型問題の発見技術 リスク兆候を監査する技術

回数	日程
1	6月 2日(火)~ 3日(水)

会場 日科技連・東高円寺ビル
 講師 飯塚 悦功 (東京大学名誉教授)
 奈良 隆正 (NARAコンサルティング 代表)
 金子 龍三 (㈱プロセスネットワーク 代表取締役社長)
 参加費 59,400円 (一般) / 51,840円 (会員)

(略称)
SQiPPM

実践！プロジェクト マネジメントセミナー

PDU対象
コース
13～
19.5PDU
※表紙2★参照

プロジェクトのマネジメントは具体的にどうすればいいのだろうかとお悩みの方、これからプロジェクトマネジメントをおこなう方、プロジェクトリーダーを体験したがうまくできなかったという方へ、是非おすすめいたします。プロジェクトを成功させたいリーダー必見です！

また、希望者は3日目にソフトウェア開発におけるプロジェクトマネジメントについて事例を中心に学ぶことができます。

コースの特色

- 実例を中心に、より実践的にプロジェクトマネジメントを学ぶことができます。
- ソフトウェア開発のプロジェクトマネジメントについても事例を交えながら学ぶことができます（希望者のみ）。
- プロジェクトを成功させたいリーダー必見です。

こんな方におすすめします

- プロジェクトリーダーまたはプロジェクトリーダーをめざす方、プロジェクトリーダーの立場でお困りの方

参加者の声

- 各講師の体験談に基づいた講義だったので分かりやすかった。
- プロジェクトマネジメントの重要性について理解を深めることができた。
- プロジェクトリーダーになって行き詰まっていたので、道が開けたように感じた。

カリキュラム

3日間

	時間	科目
1日目	9:20～12:00	オリエンテーション 国際動向について 現実のプロジェクトマネジメント－失敗事例を中心とした課題の提起－
	13:00～15:00	プロジェクト計画の策定
	15:15～17:15	実践的管理の方法
2日目	9:30～11:30	プロジェクトのヒューマンファクタ プロジェクトリーダーの育成 コミュニケーションマネジメント
	12:30～13:45	CCPM入門（クリティカルチェーンプロジェクトマネジメント）
	13:45～14:15	本セミナーのまとめ
	14:30～17:00	演習の回答と総合質疑
3日目	9:30～11:30	プロジェクトマネジメント事例（1）
	12:30～14:00	プロジェクトマネジメント事例（2）
	14:10～16:40	ソフトウェア開発のプロジェクトマネジメント講義&演習（まとめ含む）

※3日目は希望者のみの参加となります。

回数	開催日
1	6月16日(火)～18日(木)

会場 日科技連・西新宿本部ビル
講師 香村 求（システムSWAT 代表取締役）
 金子 龍三（株）プロセスネットワーク 代表取締役社長
 岡村 孝彦（株）NTTデータアイ SDコンピテンシー
 推進部 シニアスペシャリスト
参加費 (3日間) 77,760円（一般）／68,040円（会員）
 (2日間) 52,920円（一般）／45,360円（会員）

～ “Quick-NAZENAZE” を核として超高品質、
超短期間の開発と風土創りを実現する人重視マネジメント～

(略称)
SQiP
なぜなぜ

今日明日の実業務で使用する、 ソフトウェア品質向上のための なぜなぜ分析セミナー

PDU対象
コース
13.5PDU
※表紙2★参照

現在、様々な業種で、なぜなぜによる問題解決が行われています。しかし、よくあるケースでは、原因追究自体に非常に多くの時間をかけていたり、現実的なカイゼンにつながっていなかったりする場合があります。事業に不可欠なのは「スピード感」です。

“Quick-NAZENAZE” は、直面した問題に対して原因追究をするために、スピード感があります。当セミナーでは、実務で実践できる現場革新のノウハウを伝授いたします。さらに、プロセスを変える技術論のみではなく、人重視マネジメントによる風土創り、組織創りのコツについても伝授いたします。

コースの特色

- 超短期、超高品質のアーキテクチャーを指導します。
- 理論のみではなく、現実的なカイゼン指導を行います。
- やるべきことをきちんと行う風土創り、組織創りを理解できます。
- 受講者の今日明日業務での具体的な事例指導により、なぜなぜ分析をマスターできます。

こんな方におすすめします

- 品質保証部門や開発現場での問題解決などで悩まれている方

参加者の声

- 担当者へのヒアリングが重要であることがよく分かった。
- 上流工程から“なぜ3”を回すという発想がなかったので、参考になった。
- 人重視の考え方が基本にあることが、自分の考えていることともつながって、自信が持てた。
- 問題の作り込み工程を見つけることが重要であることが分かった。
- 現実的な話がベースだったので組織風土、モチベーションについて、非常に共感できた。

カリキュラム

2日間

	時間	科目
1日目	9:30 ~ 12:30	【講義】なぜなぜとカイゼンについて - 1st Season ・一般的な品質管理の方法 ・システム開発での考慮点 ・プロセスベースの品質保証 ・なぜ3分析の良い例/悪い例 ・なぜ3のコツ ・プロセスカイゼンの考え方 ・チェックシート事例 ・コミュニケーション能力の重要性 ・マネジメントの役割 【講義】なぜなぜとカイゼンについて - 2nd Season ・今、事業に求められるもの ・なぜ3の種類と目的について ・振り返り型なぜ3のコツ ・なぜ3ヒアリングのコツ
	13:30 ~ 17:30	【講義】なぜなぜとカイゼンについて - 2nd Season (続き) ・人重視マネジメント教訓 ・正しいカイゼンを支えるために 【演習】 ・なぜ3のコツと書き方 ・なぜ3票作成 ・グループワーク ・1日目まとめ
2日目	9:30 ~ 11:50	・グループワーク (代表事例選出) ・事例発表会 1
	12:50 ~ 17:00	・事例発表会 2 ・事例発表まとめ ・悩み事相談会 (フリーディスカッション) ・全体まとめ

回数	開催日
1	7月21日(火)～22日(水)
2	12月10日(木)～11日(金)

会場 日科技連・東高円寺ビル
講師 黒岩 雅彦 (日本電気株) 品質推進本部 エバンジェリスト
参加費 61,560円 (一般) / 54,000円 (会員)

～事例をベースに現実的な改善のポイントを伝授します!～

(略称)
SQiPなぜなぜ
フォロー

ソフトウェア品質向上のための なぜなぜ分析活用事例 フォローアップセミナー

PDU対象
コース
5.5PDU
※表紙2★参照

現場で生じた問題の改善や解決の一つの方法として「なぜなぜ分析」が活用されています。真の原因を追究して、その対策として再発防止策を導き出すのですが、なかなかうまく導けなかったり、現実的な改善策とならない場合も少なくありません。

当セミナーでは、これまで皆さんの中で取り組んできた「なぜなぜ分析」において、さらに改善のヒントを得られるように具体的な事例を紹介します。その結果、現場への運用の定着、分析方法の理解、現実的な是正策につなげるポイントを理解することができます。

コースの特色

- バグ、作業単位で、現実的なプロセス改善の事例を紹介します。
- 具体的な事例から、実務の業務に役立つ改善のポイントを伝授します。

こんな方におすすめします

- 「今日明日の実業務で使用する、ソフトウェア品質向上のためのなぜなぜ分析セミナー」(p.10)を受講して、さらなる経験を積みたい方
- 品質保証部門の方や、開発現場で問題解決に悩まれていて、解決の糸口を見つけたい方
- 「なぜなぜ分析」が現実的なプロジェクトでどのように活用されているか知りたい方

カリキュラム

1日

時間	主要内容
10:00~12:30	1. なぜ3を実施するうえでのポイント (90分) 2. なぜ3の事例紹介 (※事例を解説、導き方のヒントを伝授!) 2-1. 事例1 (30分) 事例紹介、グループディスカッションで事例に対する理解を深め、講師からのポイント解説を行います。 2-2. 事例2 (30分)
13:30~16:30	2-3. 事例3 (30分) 2-4. 事例4 (30分) 2-5. 事例5 (30分) 2-6. 事例6 (30分) 3. 総合質疑 (60分)

回数	日程
1	2015年 8月26日(水)
2	2016年 2月 9日(火)

会場 日科技連・東高円寺ビル
講師 黒岩 雅彦 (日本電気㈱ 品質推進本部 エバンジュリスト)
参加費 37,800円 (一般) / 32,400円 (会員)

～問題解決には定石があり、コツがあります！～

(略称)
SQiP原因分析

実践!ソフトウェア品質向上のための 原因分析セミナー

PDU対象
コース
13.5PDU
※表紙2★参照

同じミス、バグ、トラブルが発生していませんか? そうして発生した問題解決には定石があり、コツがあります。当セミナーでは、問題の発生・流出・拡大の原因を、技術・マネジメント・ひと・組織文化の不備に求め、「問題はなぜ起こるか」という基本論点に立ち返ります。その真の原因追究のために、「七つの手順(1)問題発見のための分析、(2)関係分析、(3)存在意義分析、(4)構造分析、(5)技術的能力分析、(6)経営管理分析、(7)文化風土分析)」を用いてTQMのフレームワークで、実践面から論理的に参加者の実際の品質問題について分析を行い、真の原因の追究する「原因分析技法」の習得をめざし、有効な未然防止を得る方法について考察します。こうして、1件の些細な事件から多大な知見を獲得して成長する賢い組織に生まれ変わることができるのです。

また、当セミナーでは、書籍『原因分析～構造モデルベース分析術～』(日科技連出版社 2012年 日経品質管理文献賞受賞)をテキストとして配付いたします。

コースの特色

- 問題の状況把握、因果構造解明、対策検討について、その定石とコツを理論・実践の両面から習得します。
- 参加者の事例を素材にして、2人の講師が掛け合い風に会話をしていく中で、問題の実相を探り、問題発生メカニズムを解きほぐしていく様子を見ながら、コツを会得することができます。

こんな方におすすめします

- 各分野におけるソフトウェア開発、システム開発の実務者、管理者レベルの方

参加者の声

- 問題解決・原因分析の全体像、そして分析の勘所が分かり、大変参考になった。これで再発トラブルを減少できるかもしれないと希望が持てた。
- 問題の構造に関する仮説・モデルを持つことの重要性が分かった。今後、こうした知識を個人としても組織としても蓄積していこうと思った。
- 先生方の漫才風会話が面白かった。ユーモア溢れるやりとりで、この本質をえぐる鋭さがあって感心した。見ているうちに、自分ならこうすると考える自分に気づき、わずか2日でずいぶん成長したと実感した。

カリキュラム

2日間

	時間	科目	主要内容
1日目	9:30~12:00	第1章 問題解決の反面教師	1.1 問題解決に対する基本スタンス 1.2 問題解決の反面教師 1.3 問題解決の重要性の認識不足 1.4 問題の認識・理解不足 1.5 問題の発生状況の把握不足 1.6 問題の発生原因の解明不足
		第2章 原因分析の基本技術	2.1 問題解決の定石 2.2 業務システムの脆弱性 2.3 根本原因分析(RCA)を超えて 2.4 原因分析の手順 2.5 原因分析の要素技術
	13:00~17:00	第3章 構造モデル	3.1 「仮説知識および組織のプロセス資産構築」の構造モデル 3.2 「組織および個人の自律性」の構造モデル 3.3 「マネジメントシステム」の構造モデル 3.4 「マネジメント技術」の構造モデル 3.5 「問題解決」の構造モデル 3.6 「製品サービス提供における企画/要求仕様の品質マネジメント」の構造モデル 3.7 「製品サービス提供における設計・検査の品質マネジメント」の構造モデル 3.8 「業務品質」の構造モデル 3.9 「プロセス保証」の構造モデル
2日目	9:30~12:00	第4章 構造モデルを用いた原因分析法の事例	4.1 改善活動が慢性的に不振 4.2 レビューで漏れた(慢性的問題発生) 4.3 マネジメント問題が多発している(マネジメント力不足) 4.4 マネージャが育たない(改善問題) 4.5 技術者が育たない(課題未達)
		第5章 プロセスネットワークモデルを用いた原因分析法(PNA法)	5.1 技術課題認識問題「顧客の要求仕様通りだったのに」 5.2 開発計画未決定問題「開発計画の策定が遅れている」 5.3 リソース不整合問題「要因が足りない」 5.4 技術課題問題「改造時にレビューで漏れた」 5.6 結合検査時の問題「潜在バグ問題」 5.7 開発遅れ問題「品質問題のために納期を守れそうにない」 5.8 操作性問題「画面が切替できず次の処理に移れない」 5.9 使い難さ問題「初心者には使い難い」
	13:00~16:30	第6章 原因分析のQ&A 事例研究、質疑応答	
	16:30~17:00	実践例を用いたのセミナー フォローアップ	

回数	開催日
1	6月23日(火)~24日(水)
2	11月17日(火)~18日(水)

会場 日科技連・東高円寺ビル
講師 飯塚 悦功(東京大学名誉教授)
金子 龍三(株)プロセスネットワーク 代表取締役社長
参加費 52,920円(一般) / 45,360円(会員)

～自らの問題意識からはじめるプロセス改善手法でがっちり現場を固める～

(略称)
SQiP自律改善

ソフトウェアプロセス改善手法 “SaPID” による 自律改善実践セミナー

QMSやCMMIなどのプロセスモデルに基づく改善が一定レベルで普及しましたが、その効果を獲得している組織がある一方で、モデルに合わせる事が目的化してしまい、なかなか効果的な改善が実践できずに組織が硬直化している、などの状態から抜け出せない組織も存在しています。

また、改善手段としてよく知られたなぜなぜ分析やQC・新QC七つ道具が使われますが、どのようなアプローチをとったとしても、自ら狙った成果を計画通りに達成する、実務管理者・担当者自らの課題や組織の課題解決を通じて最終的に顧客も、組織も、そして自らも喜べる状態に変えていくことが求められています。

その実現を促進するプロセス改善手法の一つであるSaPIDでは、改善対象を一つのシステムとみなし、実務を行う技術者とその管理者が自ら感じている様々な負の要因を因果関係で分析し、全体像(問題構造)を明らかにしたうえで、目標を達成する改善ポイントを撃ち抜く「システムズアプローチ」を実践します。

当セミナーでは、やらせる、やらされる改善からの脱却を目指して、システムズアプローチによる自律した改善運営の実現方法を伝授します。



指定教材：
書籍「ソフトウェアプロセス改善手法SaPID入門」をテキストとします。

SaPIDとは

Systems approach based Process Improvement methodの略称で、審査員やアセッサーの現状評価結果に基づき改善を行うのではなく、実務管理者、実務担当者など自らが普段感じている問題意識をベースに現状を評価し、欲しい結果を得るために効果的なポイントを特定して改善を進める手法です。

自ら言い出したこと、自ら考えたことを前に進めるー自律した改善に結びつけやすい特徴を持ちます。

※「SaPID」は株式会社HBAの日本における登録商標です。

こんな方におすすめします

- ソフトウェアのプロセス改善推進者/SEPG・PMO・QA・アセッサー・内部監査員
- ソフトウェア開発・保守・運用に携わった経験があり、自ら問題解決を行う意識を持っている方
- プロジェクト・業務管理者/技術リーダー～技術者
- 組織的品質マネジメントを促進する立場の部署・部門統括管理者
- CMMI・QMS・ITSMSなどの効果が実感できない、改善で成果を上げたい組織、チーム、技術者の方

カリキュラム

2日間

	時間	実施内容	詳細
1日目	9:30～12:30	イントロダクション ワークショップ実施準備 解説	全体概説 進行説明・チームビルディング他 SaPID開発の経緯と自律改善の必要性 SaPIDの全体像
	13:30～15:00	ワーク&フィードバック	STEP0: テーマ設定 STEP1: 問題洗い出し・引き出し STEP2: 事実確認・要素精査
	15:15～17:30		STEP3: 問題分析・構造化 STEP4: 改善ターゲットの検討・決定
2日目	9:30～12:30		STEP5: 改善策の検討・決定 STEP6: 改善目標の検討・決定 STEP7: 改善計画立案
	13:30～15:00		STEP8: 改善トライアルと評価・フィードバック STEP9: 全体適用と評価・フィードバック
	15:15～17:00	事例研究 ディスカッション クロージング	改善推進時に必要なこと/やってはならないこと 自律運営を実現させるために何が必要か? まとめ

回数	日程
1	2015年 未定

会場 日科技連・東高円寺ビル
講師 安達 賢二 (株HBA)
参加費 72,360円 (一般) / 64,800円 (会員)
募集定員 25名 (定員に達し次第、申込を締切ります)
受講条件 受講時に自らがかわる活動 (改善対象組織、プロジェクト、チーム、自らの役割など) に存在する問題・課題を持ち寄り、分析いただきます。

(略称)
SQiPメトリクス
基礎/技法

データ指向のソフトウェア品質 マネジメントセミナー (基礎編・技法編)

PDU対象
コース
基礎編
6.5PDU
技法編
14PDU
※表紙2★参照

すでにソフトウェアメトリクスを収集している組織にとってもこれからという組織にとっても、収集したメトリクスをどのように分析、活用するかは大きな関心事であり、また悩みも多いのではないのでしょうか。そして、悩みの原因として多いのが、「適切な分析、活用方法を知らない」。書籍などを参考にして分析を試みたものの、「解決したい問題やデータに対してどの手法がマッチしているか分からないため、そこで途方に暮れてしまう」、「試しにやってみたものの本当に結果が正しいのか自信が持てない。そのため、分析結果からアクションに結び付けられない」など、結果的に何も変わらない、マネジメントに役立っていないというケースをよく耳にします。

当セミナーでは、ソフトウェア開発の分野で実際に適用されているデータ分析技法、品質管理手法などを、統計解析ソフトウェアパッケージ「R」を用いてパソコンによる演習を交えて実践的に学びます。実際の現場でのメトリクスを使用して、ソフトウェア開発で各種手法を適用する際の注意点やノウハウなども解説し、これらの悩みを解決していきます。



技法編テキスト
「データ指向のソフトウェア
品質マネジメント」

コースの特色

- 【基礎編】
 - ソフトウェアメトリクスの基礎と理論を体系的に説明します。
 - プロダクトとプロセスのメトリクスの両面を取り上げます。
 - 単に測る方法だけでなく、その解釈の仕方や、改善のヒントを解説します。
 - JCSQE 初級試験のメトリクス関連の内容がばっちり分かります。
- 【技法編】
 - 「事実に基づく管理」を実践する理由が分かります。
 - データという客観的事実を適切に分析し、アクションにつながる分析を行うスキルが身につきます。
 - 1人1台パソコンを使用し、演習中心に具体的な分析例を用いて実践的に学べます。
 - 書籍『データ指向のソフトウェア品質マネジメント』（日科技連出版社）をテキストとします。

こんな方におすすめします

- ソフトウェアメトリクスを品質マネジメント、プロセス改善開発力向上などに役立てたいと考えている方（ソフトウェア開発技術者、品質管理・保証担当者、プロセス改善担当者など）なら、どなたでも参加していただけます。

カリキュラム

3日間

	時間	午前	午後
1日目 【基礎編】	9:30 ~ 17:00	・概論 意思決定量的管理の必要性事実に基づく管理 ・プロダクトを測る レビューやテストの進捗管理のための結合度、複雑度、凝集度(演習を含む)	・プロセスを測る プロダクトとプロセスのメトリクス ・事例紹介 可視化する事例 ・総合質疑
2日目 【技法編】	9:30 ~ 18:00	・データ分析手法、品質管理手法概論 データ分析手法、品質管理手法の全体像とそれぞれの目的、活用方法を解説 ・統計パッケージ「R」の基本操作 RおよびRコマンドの基本操作、データハンドリング～グラフ化、基本統計量の出力程度まで	・ソフトウェア開発における品質コスト分析 統計手法の基礎、ヒストグラム、検定、品質管理手法の紹介(品質コスト分析、管理図)
3日目 【技法編】	9:30 ~ 17:00	・レビューの品質向上のための予測モデルの構築 ・相関、回帰分析を通しての欠陥、工数、規模の測定	・実践演習 与えられたデータセットを使って、習得した手法を組み合わせて一連の分析の流れを実践

回数	開催日
1	2015年 7月13日(月)～15日(水)
2	2016年 1月25日(月)～27日(水)

会場 日科技連・西新宿本部ビル、東高円寺ビル
 講師 小池利和 (ヤマハ株) デジタル楽器事業部
 品質保証部品質管理G 担当課長)
 小室 睦 (富士フイルムソフトウェア株)
 ソフトウェア技術本部)
 野中 誠 (東洋大学 経営学部 教授)

参加費 【基礎編 (第1日目のみ)】 32,400円 (一般) / 27,000円 (会員)
 【技法編 (第2、3日目のみ)】 61,560円 (一般) / 54,000円 (会員)
 【基礎編+技法編 (3日間)】 83,430円 (一般) / 73,710円 (会員)

～メトリクスを活用したソフトウェア品質保証の実践や指導、品質システム構築、改善の推進が可能となります！～

PDU対象
コース
13PDU
※表紙2★参照

(略称)
SQiPメトリクス
活用

実践！ソフトウェア品質保証のための メトリクス活用セミナー

近年、ソフトウェアの利用分野がますます広がり、その品質の社会に対する影響度が增大する中で、ソフトウェアの品質保証を的確に実施し、品質を確保していくためには、適切なメトリクスの設定とそれに基づく品質データの収集と分析が非常に重要になっています。

当セミナーでは、開発の各フェーズにおける実践的なメトリクスの活用について、事例を交えて紹介するとともに演習により、理解の深耕、定着化を図りますので、現場ですぐに実践することができます。メトリクスを活用した品質保証の推進を検討している開発技術者、品質管理技術者および定量的な品質システム構築を目指すプロセス改善推進担当者におすすめします。

コースの特色

- 計画立案から設計・製造・テスト・出荷と、ソフトウェア開発プロジェクトの進行に従った、メトリクスの活用方法（開発計画立案時のデータ活用法、設計段階において最良の設計案を選択する方法、上流工程のレビュー結果に基づく品質把握とテスト工程残存バグ数の予測、適切なテスト実施状況の監視方法、出荷可否判断の方法、弱点モジュールや問題プロセスの見つけ方）を学ぶことができます。
- 習得したメトリクスは、演習により、理解の深耕、定着化を図りますので、現場の中ですぐに実践することができます。
- メトリクスを活用したソフトウェア品質システムの事例を紹介しますので、自社のシステム構築、改善に役立ちます。

こんな方におすすめします

- ソフトウェア開発の中核として活動する、開発技術者、品質管理技術者およびプロセス改善推進担当者

参加者の声

- メトリクス活用の重要性は理解していたが、活用方法や他社での事例等の説明があり良かった。
- 統計的手法を取り入れた品質分析の方法を習得することができた。
- 実際の現場の例が多く盛り込まれていたため、イメージが湧き、わかりやすかった。

カリキュラム

2日間

	時間	科目
1日目	9:30～12:30	1.メトリクスはどのように活用すればいいのか ～いきなり事例！：メトリクスを活用した定量的品質管理の実際～ 1.1 ソフトウェア品質管理に求められることは 1.2 上流工程から一貫した品質管理 1.3 品質管理システムの運用 ・品質管理システムの運用概要 ・潜在バグの予測 ・品質管理の実施
	13:30～17:00	1.3 品質管理システムの運用(つづき) ・バグ分析の実施・工程移行と工程後戻り・潜在バグ予測の見直し・出荷後品質管理 (演習1)品質管理の進め方 2.ソフトウェア品質保証におけるメトリクスの活用 2.1 メトリクス活用の前に知っておくべきことは ・データの種類と特徴・データ収集と考慮点(演習2)データ分析の基本
2日目	9:30～12:30	2.2 メトリクス活用の実際 (ケース1)開発計画立案時 (ケース2)設計時 (ケース3)設計レビュー実施時 (ケース4)テスト工程に入るとき(演習3)テスト工程で何件バグを検出すればいいの？
	13:30～17:00	2.2 メトリクス活用の実際(つづき) (ケース5)テスト実施時 (演習4)テストは順調に進んでいるのだろうか？ (演習5)テストは終了していいのだろうか？(ケース6)出荷判定 (演習6)出荷可否の判断は？(ケース7)年度単位のデータ分析による組織的改善 (演習7)改善活動の効果は？(演習8)発注会社/担当者の品質レベルはどう評価する？

回数	開催日
1	2015年 7月29日(水)～30日(木)
2	2016年 1月28日(木)～29日(金)

会場 日科技連・東高円寺ビル
講師 真野 俊樹 (SQA総合研究所 代表エグゼクティブコンサルタント)
参加費 57,240円 (一般) / 49,680円 (会員)

XDDPの基本とその効果を知りたい品質部門の方へ
 ～清水吉男の派生開発の効果的アプローチであるXDDPを基礎から学ぶ～

(略称)
XDDP入門

ソフトウェア品質部門のための XDDP入門コース

PDU対象
コース
6.5PDU
※表紙2★参照

「XDDP(eXtreme Derivative Development Process)」は、派生開発に特化した開発アプローチで、「短納期」や「部分理解」といった派生開発特有の問題に合理的に対応する方法を提供しています。「XDDP」は、派生開発の諸問題を解決しかつ再生可能な効果的開発アプローチの一つと位置づけられており、的確に活用していけば、従来比で3～5割の生産性の向上が期待できます。言い換えれば、ソフトウェアの開発プロセスは、それだけ工夫の余地が残されているということです。もちろん「派生開発=XDDP」というわけではありません。派生開発は多様な世界であり、あくまでも「XDDPは派生開発における一つの効果的アプローチ」という位置づけです。

従来、XDDPは設計・開発部門を中心に進めてきましたが、XDDPの効果が表面化するにつれて、今後の派生開発に対して市場はさらなるQCDの向上を求めてくることは容易に想像できます。その状況に対応するには開発部門と品質保証部門の効果的な連携が必要になってきます。しかしながら、XDDPは多くの組織が保有している「標準プロセス」とは異なった形をしているために、品質保証部門の方の理解が得られないケースも生じています。

そこで、このXDDPを品質関係部門の方々に基本から知っていただくために設けられたのが、当セミナーです。多くの方々のご参加をお待ちしています。

コースの特色

- XDDPの考え方、特長とポイントが1日で理解できます。
- 品質と生産性の同時達成に対するプロセスの重要性と「プロセスを設計(デザイン)する」必要性が理解できます。
- 本コース受講後、さらに理解を深め劇的に改善を図りたい方は「XDDPの導入、活用による開発プロセスの改善セミナー」(次ページ参照)の受講をおすすめします。

こんな方におすすめします

- XDDPの考え方、特長を理解したい品質関係部門の方
- XDDPを自社に導入することを検討している企業・組織の品質関係部門の方
- 再度XDDPを基本から学びたい品質関係部門の方

参加者の声

- 派生開発に対するXDDPの効果を分かり易く説明いただき理解が深まった。
- プロセス改善の有益性、それに取組む意義を理解できた。
- 現場の感覚と一致して分かりやすかった。

カリキュラム

1日

時間	主要内容
9:30～12:30	・ 派生開発の現状と問題 多様な要求/派生開発の重要性/派生開発での混乱の原因について ・ XDDPの基本的考え方 派生開発アプローチ/追加機能要求仕様書/変更3点セット ・ XDDPの効果
13:30～17:00	・ 導入障壁の実態 標準プロセスって何?/プロセスの「固定」と「安定」の混同/ 「変化」を「安定」させる仕組みがない ・ XDDPを利用したプロセスの改善の意味 自在なプロセス設計の必要性/プロセスの実現性の評価/XDDPから始める多様な要求への対応 ・ XDDPから新しい展開へ

回数	日程
1	6月 4日 (木)

会場 日科技連・東高円寺ビル

講師 清水 吉男 (株)システムクリエイツ 代表取締役

参加費 37,800円 (一般) / 32,400円 (会員)

～派生開発を制覇しなければ、明日はない！～

PDU対象
コース
13PDU
※表紙2★参照

(略称)
XDDP実践

XDDPの導入、活用による開発プロセスの改善セミナー -XDDPを活用した品質と生産性の劇的改善のノウハウ-

今日、組み込み系システムだけでなく、パッケージソフトや制御系ソフト、エンタプライズ系においても、いわゆる派生開発によるシステム開発が頻繁に行われるようになりました。しかしながら、派生開発によって開発されたソフトウェアから多くのトラブルが発生しています。

派生開発の問題は、派生開発の要求そのものが多様であるのに対して、多くの現場で行われている開発プロセスが、派生開発の要求にマッチしないために起きています。その状況の中で多くのバグに見舞われ、繰り返される手戻り作業がソフトウェア技術者の疲弊を招いています。

組織によっては90%以上がこのような派生開発という現実があり、この混乱が解消しないことでプロセス改善活動も形骸化してしまいます。それでも常に変化する市場の要求に応えていくためには、プロセスを改善し続けなければならないというジレンマの中に置かれています。

このような派生開発の場面において効果的なプロセスを提供するのが「XDDP (eXtreme Derivative Development Process)」という派生開発専用の開発アプローチです。この開発アプローチは「USDM (Universal Specification Describing Manner)」という要求仕様化の方法と「PFD (Process Flow Diagram)」という要求にマッチするプロセスを自在に設計する方法の支援を受ける形で構成され、多様な要求に対応することができます。実際、これまで多くの現場においてその効果は確認されています。

当セミナーでは、品質関係部門の方々へ、このXDDPを導入し、プロセス改善活動と組み合わせることで劇的な成果につなげる方法を、XDDP生みの親である清水吉男先生から伝授いたします。

コースの特色

- XDDP生みの親である清水吉男先生から直接指導を受けることができます。
- XDDPを活用して、開発プロセスを変化させることができます。
- XDDPの導入障壁となっている“組織標準プロセス”を見直すきっかけとすることができます。
- 1人1台パソコンを使用し、演習をまじえて実践的に学びます。

どんな方におすすめします

- XDDPを導入している企業・組織の方
 - XDDPの導入を検討している企業・組織の方
 - プロジェクトにおいてプロセスの保証を担当している方
- * 大きな効果を生み出すために、1社から品質部門と設計部門の両担当者の参加をおすすめします。
* 本コースを受講にあたって、より理解を深めていただくために、「ソフトウェア品質部門のためのXDDP入門コース」(前ページ参照)の受講をおすすめします。

参加者の声

- USDMで記述された要求仕様書の実例を見ることができて参考になった。
- XDDPの根底にある、プロセス改善の考え方・取り組み方について、講師の経験も加えてわかりやすく説明いただき、非常に良かった。

カリキュラム

2日間

	時間	主要内容
1日目	10:00~12:30	・ 混乱する派生開発 派生開発の特徴とプロセスの実態 ・ プロセス改善の意味と現状 ・ 派生開発におけるプロセス改善の意義 組織標準のあり方/派生開発のプロセス改善の効果
	13:30~17:30	・ XDDPの復習 標準的派生開発アプローチ/追加機能要求仕様/変更要求仕様を含む3点セット ・ USDMの効果を実感してみよう
2日目	9:30~12:30	・ 派生開発におけるプロセスの保証 ・ PFDを読む/プロセスの定義から設計へ ・ 変化を安定させる意味
	13:30~17:00	・ PFDによるプロセスの評価ポイント PFDで何が分かるのか? ・ XDDPプロセスを設計してみよう PFDを使ってXDDPによるプロセスを設計する

回数	日程
1	7月 6日(月)~ 7日(火)
2	11月 5日(木)~ 6日(金)

会場 日科技連・東高円寺ビル

講師 清水 吉男 (株)システムクリエイツ 代表取締役

参加費 61,560円 (一般) / 54,000円 (会員)

(略称)
SQiP
品質会計

現場で効果をあげる 「ソフトウェア品質会計」の適用方法(初級)

PDU対象
コース
7PDU
※表紙2★参照

「ソフトウェア品質会計」とは、NECにおいて長年取り組まれているソフトウェア品質管理手法です。全体品質を担保するための基本的な考え方であり、現場・現実・現物を重視している点が大きな特徴です。ソフトウェア品質製造工程までに作り込んだバグを“負債”とし、レビューやテストにより、負債を返済(摘出)して、負債(残バグ)が0になった時点で出荷するという手法を用いています。

「ソフトウェア品質会計」は、書籍としても発行され広く公開されていますが、セミナー化を望む多くの声を受け、セミナーとして開催します。

各企業のソフトウェア品質向上のため、当セミナーの参加をおすすめいたします。



「ソフトウェア品質会計」

コースの特色

- ソフトウェアの品質管理手法である「品質会計」について、現場での適用を想定した使い方を、講義と演習を通して習得します。
- ソフトウェア開発技術者が、ソフトウェア開発プロジェクトの自担当部分に対して、品質のよし悪しを判断できるようになります。
- 書籍「ソフトウェア品質会計」(菅田直美著、日科技連出版社発行)を配付します。

こんな方におすすめします

- ソフトウェア開発技術者の経験を1～2年程度お持ちの方

カリキュラム

1日

時間	科目	主要内容
9:00～12:30	1. 品質会計とは	<ul style="list-style-type: none"> なぜ品質会計は生まれたか 「品質会計」の語源 ソフトウェア品質会計とは 品質会計の技術体系 品質会計を構成する技法とその特徴 開発プロセスと品質会計技法の適用の関係 品質会計の原則 「設計」と「レビュー」の関係 品質会計の効果 品質会計を適用するために収集すべきデータ
	2. 上工程品質会計の実際	<ul style="list-style-type: none"> 上工程品質会計とは バグの作り込み工程と摘出工程 上工程品質会計の流れ 帰帰型バグ予測モデル 作り込み工程別のバグ分析 上工程品質判定表
	3. グループ演習：工程移行判定	
13:30～16:30	4. テスト工程品質会計の実際	<ul style="list-style-type: none"> テスト工程品質会計とは テスト終盤の残存課題の分析の考え方 テスト工程品質会計の流れ バグ傾向分析 バグ分析と1+n施策 バグ収束判定
	5. グループ演習：テスト終盤に発生したバグのバグ分析	

備考：

本コースは、日本科学技術連盟とNECマネジメントパートナー(株)との共催事業であり、コース実施のためのお客様の個人情報やNECマネジメントパートナー(株)に提供させていただきます。

【重要】本コースは当財団の通常研修とは以下の点で異なりますのでご注意ください。

- (1) 申込締切日は、8営業日前となります。
- (2) キャンセルポリシーは以下の通りとなります。ご確認ください。
 - ①当該教育研修コース開始日を起算日として5営業日前までの受講者キャンセルについては、キャンセル料は一切発生しません。
 - ②①以降のキャンセルについては、参加費の100%のキャンセル料が発生します。
 - (3) 開催通知は、開講の1～2週間前に送付いたします。

回数	開催日
1	未定
2	未定
3	未定
4	未定

会場 NECマネジメントパートナー 芝浦研修センター

講師 菅田 直美 (日本電気(株) ソフトウェア生産革新本部 主席品質保証主幹)

参加費 43,200円 (一般/会員)

※開催日は決まり次第ホームページへ掲載します。

(略称)
ST

2日でマスターする ソフトウェアテストセミナー

PDU対象
コース
14PDU
※表紙2★参照

組み込みソフトを持つ製品において、ソフトウェアやシステム開発時における品質の重要性が非常に高くなってきており、テストや試験の抜け落ちが製品の重大な品質事故につながるケースが発生しています。しかしながら、ソフトウェア開発時において、網羅性の高いテストを行うには無限の組み合わせが必要で、それを満たすにはシステムテストの知識だけでは難しいのが現状です。

当セミナーは、直交表を活用することで、効果的、効率的にテスト設計を行い、最小限で網羅性の高い組み合わせテストを設計する方法を学ぶことができます。また、理論を最小限におさえ、演習を通じて試験方法を学ぶため、すぐに実務に役立ちます。初めて学ぶ方から実践力をつけたい方まで幅広い方々に最適なセミナーです。

コースの特色

- 直交表を活用した効果的なテスト設計をやさしく学びます。
- 組み込みソフトを持つ製品を対象とした確実な試験方法を習得することができます。
- 演習により、すぐに実務に役立つ内容です。
- 開発時のバグ取り試験の抜け落ちによるクレーム発生の防止に最適なコースです。

こんな方におすすめします

- システムテストの計画者
- 組み込みソフトを持つ製品の開発者

参加者の声

- 今回の講習は、とてもためになったと思います。まずは持ち帰ってトライします。
- 直交表が装置状態や操作に適用でき、何にでも柔軟に適用できることがわかりました。大変有益な研修でした。
- これまで直交表のことは知っていましたが、使い方がほとんどわかりませんでしたので、その有効性がわかり、受講して良かったと思います。

カリキュラム

2日間

	時間	主要内容
1日目	9:30～17:30	コンピュータ利用の拡大とリコールの増大 システムのテスト計画を作る ソフトウェアのテスト計画を検証する テスト計画作成法の提案 プログラム・テスト結果を評価する 直交表を使ってテスト計画を作る 演習
2日目	9:00～17:00	直交表の概要 演習 まとめ

回数	日程
1	6月18日(木)～19日(金)

会場 大阪・日科技連 大阪事務所 (新藤田ビル)
講師 花田 憲三 (花田技術士事務所 (技術士、博士))
 浜田 佐敏 (元 株式会社日立製作所 (技術士))
参加費 63,720円 (一般) / 56,160円 (会員)
 ※割り付けソフト付

～JSTQB試験対策として、テスト技術の習得に、ご活用ください！～

(略称)
JSTQB-FL公認

JSTQB認定ソフトウェアテスト技術者 -Foundation Levelトレーニングコース

PDU対象
コース
16PDU
※表紙2★参照

当セミナーでは、企業や組織の枠を超えたソフトウェアテストの基本的な手法や技法について、国際的に普及しているISTQBのシラバスに基づいて、効率的に学習できます。

ソフトウェアは、今や社会インフラ基盤を構築する重要な存在であり、ソフトウェアに起因する品質事故は、社会問題を引き起こします。ソフトウェアの品質確保は、ソフトウェア産業にとって、社会的責任とも言えます。そのための重要な技術として、ソフトウェアテストがありますが、ソフトウェア技術者全員が、テスト技術を向上させなくては、品質は良くなりません。ソフトウェア業界全体で技術力を向上する手段の一つに、JSTQB (Japan Software Testing Qualifications Board) 資格認定制度があります。(18ページ参照)

当セミナーを修了された受講者の方には、1年間有効のJSTQB-FL試験受験料割引のバウチャーチケットを発行します。多くの方々のお講をお待ちしています。

*JSTQBのテスト技術者資格は、ISTQB (International Software Testing Qualifications Board) を通じて、アメリカやイギリス、ドイツなどのISTQB連携のテスト技術者資格と相互認証を行っています。JSTQBと日本科学技術連盟で、パートナーシップを結んで資格認定試験を実施しています。

コースの特色

- ISTQB FLに基づいたソフトウェアテストの基本的な手法や技法が習得できます。
- ソフトウェアテストの基礎的な用語を理解し、自身のプロジェクトへ適用できるようになります。
- JSTQB試験対策を十分に行っていただくためにテキストを事前にお送りします。

どんな方におすすめします

- ソフトウェアテストの手法や技法の基礎知識を身につけたい方
 - ISTQB-FLレベル資格認定取得に取り組まれている方
- *開発者、テスト担当者、品質管理担当者、マネージャなど幅広い層が対象です。また、ユーザ（発注者）の立場として、一般的なソフトウェアテストの知識が必要となっている方も対象となります。

カリキュラム

3日間

	時間	主要内容
1日目	9:30～12:25	1. テストの基礎 1.1 テストの必要性 1.2 テストとは何か? 1.3 テストの7原則 1.4 基本的なテストプロセス 1.5 テストの心理学 1.6 行動規範
	13:25～17:20	2. ソフトウェアライフサイクルを通じてのテスト 2.1 ソフトウェア開発モデル 2.2 テストのレベル 2.3 テストの種類(タイプ): テストのターゲット 2.4 保守テスト 3. 静的技法 3.1 静的技法とテストプロセス 3.2 レビュープロセス 3.3 ツールによる静的解析
2日目	9:30～12:30	4. テスト設計技法 4.1 テスト開発プロセス 4.2 テスト設計技法のカテゴリ 4.3 仕様ベース、ブラックボックスのテスト技法
	13:30～17:30	4.3 仕様ベース、ブラックボックスのテスト技法(続き) 4.4 構造ベース、ホワイトボックスのテスト技法 4.5 経験ベースのテスト技法 4.6 テスト技法の選択
3日目	9:30～12:15	5. テストのマネジメント 5.1 テスト組織 5.2 テスト計画作業と見積り 5.3 テスト進捗のモニタリングとコントロール 5.4 構成管理 5.5 リスクとテスト 5.6 インシデント管理
	13:15～17:20	6. テスト支援ツール 6.1 テストツールの種類 6.2 ツールの効果的な使い方: 利点とリスク 6.3 組織へのツールの導入

回数	日程
1	7月 1日(水)～ 3日(金)
2	12月 1日(火)～ 3日(木)

会場 日科技連・東高円寺ビル

講師 JSTQB公認トレーニングコースインストラクター

参加費 108,000円(一般) / 102,600円(会員)

JSTQBテスト技術者資格認定制度

主催：JSTQB

試験実施：日本科学技術連盟

※日本科学技術連盟は、主催団体であるJSTQBとパートナーシップを結んでおり、試験の実施組織となっています。

JSTQB (Japan Software Testing Qualifications Board) とは

- ・日本におけるソフトウェアテスト技術者資格認定の運営組織で、各国のテスト技術者認定組織が参加しているISTQB (International Software Testing Qualifications Board) の加盟組織として2005年4月に認定されています。
- ・ISTQBの加盟組織の各国団体は資格および教育・訓練組織認証について相互認証を行っています。
- ・JSTQBが運営するソフトウェアテスト技術者資格は海外でも有効な資格となっています。

自動車、携帯電話、社会インフラ、企業システムなど、我々の身の回りは、ソフトウェアで占められています。すなわち、我々の身体や財産の安全はソフトウェアに委ねられているのです。しかし昨今の状況を鑑みると、ソフトウェアの品質や信頼性、安全性が十分に確保されているとは言えません。ソフトウェアの品質や信頼性、安全性の確保は急務なのです。

そのための重要な技術として、ソフトウェアテストがあります。システムトラブルの報道でしばしば目にする「テスト不足」というキーワードは、テストの工数の不足を示唆しているだけではありません。業界全体でテストの技術力が低迷していることを意味しているのです。我々の身体や財産を守るために、ソフトウェア技術者全員が、テスト技術を向上させなくてはなりません。

業界全体で技術力を向上する手段の一つに、資格認定制度があります。JSTQBでは、日本のソフトウェア技術者がテスト技術を向上させるきっかけとして、テスト技術者の資格認定制度を開始いたしました。

我々の身体や財産を守るために、また日本のソフトウェア業界の技術力向上のために、ぜひ多くのソフトウェア技術者にJSTQBテスト技術者資格を取得していただきたいと考えております。

皆様のチャレンジをお待ちしております。

- JSTQBテスト技術者資格認定制度は、Foundation Level、Advanced Levelの2段階により構成されています。

Foundation Level試験実施要領

- ◆2015年度実施日◆ 2015年8月
(開催日未定) 2016年2月
- ◆試験時間◆ 60分
- ◆開催地域◆ 東京、名古屋、大阪、福岡他(予定)
- ◆試験料◆ 21,600円
- ◆出題範囲◆ シラバスに準じます。

Advanced Level試験実施要領

- ◆2015年度実施日◆ 未定
(開催日未定)
- ◆試験時間◆ 180分
- ◆開催地域◆ 東京、名古屋、大阪他(予定)
- ◆試験料◆ 21,600円
- ◆出題範囲◆ シラバスに準じます。

試験のご案内は、日科技連のWebサイト (<http://juse-sqip.jp/jstqb>) でご確認ください。
シラバスは、JSTQBのWebサイト (<http://jstqb.jp/syllabus.html>) でご確認ください。

～最新の国際規格のエッセンスを活かした、実践的テストプロセスの構築～

(略称)
SQiPテスト
プロセス

ISO/IEC/IEEE 29119シリーズに基づいた ソフトウェアテスト実践セミナー

PDU対象
コース
6.5PDU
※表紙2★参照

今ほとんどの組織がソフトウェアテストに悩んでいます。しかし多くのセミナーや専門書はテスト設計の技法の話ばかりで、組織的なテストプロセスの構築をきちんと説明しているものはほとんどありません。

当セミナーでは、実践的なテストプロセスを構築するために、2013年に出版された最新のテストプロセスの国際規格ISO/IEC/IEEE 29119シリーズのエッセンスと実践へのポイントを解説します。特に、グローバル企業や海外顧客との取引、オフショアでのテストでは重要になるでしょう。

コースの特色

- 最新かつ事実上唯一のテストプロセスおよびテストドキュメントの国際規格であるISO/IEC/IEEE 29119シリーズに関する日本初のセミナーです。
- ISO/IEC/IEEE 29119シリーズの概要および動向を知ることができます。
- ISO/IEC/IEEE 29119-2のエッセンスから、組織的なテストプロセスの構築の実践的なガイドを学ぶことができます。
- IEEE 829/2008の後継であるISO/IEC/IEEE 29119-3の内容から、テストドキュメントに書くべき内容を把握することができます。

こんな方におすすめします

- テスト組織に属するテストマネジャーおよびエンジニア
- 開発組織に属するプロジェクトマネジャーおよびエンジニア
- 品質保証組織に属するマネジャーおよびエンジニア
- 技術推進組織や技術標準化組織に属するマネジャーおよびエンジニア
- テスト事業を営む組織の経営者・技術責任者

カリキュラム

1日

時間	科目
9:30~17:00	・ISO/IEC/IEEE 29119シリーズの概要と動向 ・ISO/IEC/IEEE 29119-1 (コンセプト) の解説 ・ISO/IEC/IEEE 29119-2 (プロセス) の解説 ・ISO/IEC/IEEE 29119-3 (ドキュメント) の解説 ・ISO/IEC/IEEE 29119シリーズ活用のためのポイント

回数	日程
1	未定

会場 日科技連 東高円寺ビル
講師 未定
参加費 未定

開催の詳細が決まりましたら、Webにてご案内いたします。

ASQN (Asian Software Quality Network) のご案内

現代社会におけるソフトウェアの重要性に議論の余地はなく、経済・社会インフラとしても、製品・サービスの質を左右するものとしても非常に重要であり、ソフトウェアは産業競争力を左右し、国力を左右するといっても過言ではありません。

このような中で、ソフトウェア品質向上を実現するために、各国が国際協力に参画することは欠かすことができません。特に地理的に近隣であるアジア地域での国際協力を推進し、欧州、米国に対抗できる力を持つておく必要があります。日本発のソフトウェア品質方法論をベースに世界におけるアジアの国際競争力強化のために、連携し、結束を固め、足下を固め、来るべき将来に向けて備えていきたいアジアにおけるネットワークを築き、アジアでのソフトウェア品質向上に努めるため、ASQNを設立しました。

すでに、マレーシア、上海でのソフトウェアのフォーラムなどで、ジョイントイベントとして、ASQNセッションを併催し、アジア地域のソフトウェア品質に関するネットワーク作りを進めています。今後も、毎年、アジア地域で行われるイベントにジョイントしてカンファレンスを開催、アジアのネットワークづくりをしていきます。当活動はホームページで随時ご案内します。

ソフトウェア 品質技術者資格認定制度



あなたのソフトウェア品質力を認定します！

2008年12月に設けられたソフトウェア品質技術者資格制度（JUSE Certified Software Quality Engineer）は、「すべてのソフトウェア技術者に品質技術を！」をコンセプトに初級、中級、上級の3段階の資格で構成しています。初級資格試験は2013年12月末現在、累計で約4,200名の方が受験し、累計合格者数は1,600名を超えました。また中級資格試験は、累計で約550名の方が受験し、約80名の方が合格されています。

初級は毎年2回、中級は毎年1回に定期的に実施しており、ソフトウェア品質技術の効果的な修得を目指しています。上級の試験については今後新設していくべく、検討を進めています。

試験対象者は、品質保証エンジニアはもちろん、開発者や技術者、プロジェクトリーダーやマネージャ、保守技術者、教育担当者そして経営者といったすべての方々です。

「初級ソフトウェア品質技術者」資格試験

- ◆実施日◆ 第14回 6月20日（土）10:30～11:30（60分）
（予定） 第15回 11月28日（土）10:30～11:30（60分） 〈年2回開催〉
- ◆開催地域◆ 東京、大阪を中心に各主要都市にて開催
- ◆試験料◆ 10,800円
- ◆出題形式◆
 - ・複数の選択肢から正解を選ぶタイプの問題で、40問出題されます。
 - ・合格ラインは70%前後（難易度により多少変動します）。
 - ・試験時間は60分です。
 - ・出題範囲はシラバスに準拠しています。
 - ・シラバス内には、学習目標/知識のレベルを設けております。

中級ソフトウェア品質技術者 資格試験

- ◆実施日◆ 第6回 11月28日（土）13:30～15:30（120分） 〈年1回開催〉
（予定）
- ◆開催地域◆ 東京、大阪を中心に各主要都市にて開催
- ◆試験料◆ 16,200円
- ◆出題形式◆
 - ・選択式25問、記述式3種類の問題形式（下記）で17問、合計42問出題されます。
 - ・試験時間は120分（休憩なし）です。
 - ・合格ラインは70%前後（選択式、記述式ともに）。
 - ・出題範囲は中級シラバスに準拠しています。
 - ただし、選択式はレベル2～3で出題されます。
 - ・シラバス内には、学習目標/知識のレベルを設けております。

問題の種類	問題の説明	出題数（予定）
選択式	複数の選択肢から正解を選ぶ	25問
記述式	（穴埋め） 文章中の用語の穴埋め	10問
	（説明） 用語についての定義や活用方法の説明	5問
	（解説） あるテーマについてその理由や留意点などの考察を記述	2問

詳細・最新情報についてはWebサイトよりご確認ください。>>><http://juse-sqip.jp/jcsqe/index.html>

第31回

ソフトウェア品質管理研究会 〈SQIP研究会〉

ソフトウェア開発に関連した教育と事例研究を行うことを目的として、毎年5月から2月の1年サイクルで開催しています。「ソフトウェア開発の現場を活性化させたい」、「ソフトウェアの品質がなかなか安定しない」などの問題点について、第一線で活躍中の指導講師が提案・助言した解決の糸口を互いに議論することで、問題を発見し、新たな視点を得て、品質技術を適用する実践を通じて、問題解決のスキルをマスターすることができます。また、「ソフトウェア品質シンポジウム2015」(2日間)に無料で参加することができます。

午前 10:00~12:00	〈特別講義〉 関心度や重要度が高いソフトウェア品質に関するテーマのそれぞれの専門家による講義
午後 13:00~18:00	〈分科会〉 ソフトウェア品質に関する11のテーマに分かれ、指導講師とともに、議論・学習・研究を行います。 第1分科会「ソフトウェアプロセス評価・改善」 第6分科会「派生開発」 第2分科会「リーダーシップとモチベーション」 第7分科会「欠陥エンジニアリング」 第3分科会「ソフトウェアレビュー」 演習コースⅠ「ソフトウェア工学の基礎」 第4分科会「ユーザエクスペリエンス(UX)」 演習コースⅡ「形式手法と仕様記述」 第5分科会「ソフトウェアテスト」 演習コースⅢ「ソフトウェアメトリクス」 特別コース「ソフトウェア品質保証の基礎」

■活動期間：2015年5月~2016年2月(例会全9回) ■会場：日科技連：東高円寺ビル

■参加費：172,800円(一般) / 162,000円(会員)

※研究会の詳細は、「専用パンフレット」をご請求ください。

第34回

ソフトウェア品質シンポジウム2015 〈SQIPS2015〉

本シンポジウムは、ソフトウェア品質に関わる全ての方々が一堂に会し、現場で役立つ実践的な技術や経験、ノウハウ、研究成果を発表し意見交換を行う場です。開発者、マネージャ、ユーザ企業、QA担当者、研究者といった様々な立場、組込み系やエンタープライズ系といった様々なドメインの方々がオープンな立場で品質向上のために真摯に議論し、相互研鑽や人的交流を行うことを目的としています。

2015年度開催概要

■期 間：2015年9月16日~18日(予定) ※9月16日は併設チュートリアル

■会 場：東洋大学・白山キャンパス(予定)

■プログラム概要：基調講演、特別講演、経験論文発表、経験事例発表、SQIP特別セッション、
パネルディスカッション、SIGなど

— 一般 41,040円
(早期申込み期間 41,040円→32,840円)

参加費

日科技連賛助会員 38,880円
(後援・協賛学会会員)
(早期申込み期間 38,880円→31,110円)

最新情報はこちらから！

<http://www.juse-sqip.jp/>

ソフトウェア品質知識体系 (SQuBOK®) ガイド

SQuBOK®とは、ソフトウェア品質に関する暗黙知の形式知化と、最新のテーマの整理・体系化したもので、ソフトウェア品質技術の認知度向上やソフトウェア品質プロセスの確立をめざす組織を支援する、日本発の知識体系ガイド(BOK)です。

ソフトウェア品質体系がカテゴリ、知識領域ごとに樹形図として描かれており、総論的に把握することができます。また、国内で蓄積された知識だけにとどまらず、国際規格や国際的なプラクティスなども含まれています。

このガイドは、2007年第1版発行後、2014年11月28日に第2版が発行されました。この間のソフトウェアを取り巻く環境の変化を踏まえ、(1) 開発技術の追加、(2) 安全、安心への対応、(3) 新たな国際規格改訂への対応、について改訂を行いました。中国版も既に出版され、英語版も出版に向けて準備中です。SQiPの実践的研究、普及事業の支柱としてSQuBOK®を位置づけています。SQuBOK®の活用により各企業・団体等のソフトウェア品質の価値向上の一助となれば幸いです。

※SQuBOK®は日本科学技術連盟の登録商標です。
※SQuBOK®は日本科学技術連盟と日本品質管理学会との共同策定部会による研究成果物です。
また、SQuBOK®は書籍としてオーム社より発行しています。



ソフトウェア品質知識体系ガイド -SQuBOK Guide- 第2版

- ・著者：SQuBOK®策定部会編
- ・定価：3,675円
(本体3,500円+税)
- ・B5変 400頁
- ・ISBN 978-4-274-50162-3

※SQuBOK®ガイドの改訂(アmendメント)等はWebにて公開しています。

・2014年12月SQuBOK電子版(PDF版書籍データ)をGoogleブックスより販売しています。

『SQiPコミュニティ』へのお誘い

ソフトウェア開発において、自社のソフトウェアやサービスの品質を如何に向上させていくべきかについて悩み、日々考え、情報を収集し、工夫している方々がたくさんいます。しかし、悩みを共有し議論したり、クチコミで情報を交換したり、技術や工夫を教え合ったりする場が少ないのも事実で、ソフトウェアの品質全体について気軽に交流できる場はほとんどありません。

「SQiPコミュニティ」は、ソフトウェアの品質全般について、悩みを共有し議論したり、クチコミで情報を交換したり、技術や工夫を教え合ったりする無償で気軽な場です。主な活動はメーリングリストによるメール上となりますが、希望する方がいればオフラインで勉強会を開催することもあります。ソフトウェアの品質向上に興味がある方なら、どなたでもご参加できます。実名でも匿名でも構いません(メーリングリストには公表しませんが、事務局には実名を登録していただきます)。右記の情報とともに「SQiPコミュニティ参加希望」という題名で事務局(sqip@juse.or.jp)までメールをお願いします。

皆さんのご参加をお待ちしております。一緒にソフトウェア品質の悩みを解消していきましょう。

メールへのご記入内容

- 名前
- 所属先(部署名・研究室名まで)
- 所属住所/電話番号
- 匿名希望か否か
- 匿名希望の場合はニックネーム
- メールアドレス

SQiP SIG(Special Interest Group)のご案内

SQiPコミュニティのメンバーの有志により、ソフトウェア品質に関連するSIG活動を行う仕組みです。SQiPコミュニティのメンバーであれば、どなたでもSIGを設立できます。この活動のメリットとして、以下のことが考えられます。

- ・活動計画や活動内容をSQiP Webに掲載し、広くメンバーを募集できます。
- ・必要であれば、専用のメーリングリストを設置・利用できます。
- ・活動成果を発表する機会が得られます。
- ・会合の場として日科技連の会議室を利用できます。(条件あり)

新たにSIGを設立する方法は以下の通りです。

1. 「SIG活動計画」をまとめ、SIGサポートグループ(SIGSG)にお送りください。
2. お送りいただいた活動計画の内容をSIGSGで確認し、その結果をご連絡いたします。
3. SIG設立の条件は以下のとおりです。
 - ・テーマがソフトウェア開発・管理に関連するものであること
 - ・SIGのメンバーは、リーダーを含んで3名以上であること
 - ・活動内容、活動成果に公益性があること
 - ・SIGのリーダーおよびメンバーは、SQiPコミュニティに参加していること
 - ・活動成果は一般に公開すること(SQiP SIG Webサイトに公開することを基本とします)
4. SIGの活動期間は、原則1年間です。ただし、継続を妨げるものではありませんので、息の長い活動も、もちろん可能です。

◆お問い合わせ先は「SQiP SIG」のお世話係のSIGサポートグループまで。

新たなSIG設立の受け付け、全体の取りまとめ、SQiP SIGのよろず相談窓口をしています。
SIGサポートグループ(SIGSG) : sqip-sig@juse.or.jp

ソフトウェア品質保証部長の会

各社のソフトウェア品質保証部長が熱い討論を展開中！

近年、ソフトウェアに起因する品質事故が頻発しており、ソフトウェア品質保証部門の担う役割はどんどん大きくなってきています。それに伴い、同部門の行うべき活動は多岐にわたっていますが、様々な状況のプロジェクトに対する最適な品質保証活動や、組織全体の中長期的な品質保証戦略はどうあるべきか、についてソフトウェア品質保証部門の長は日々悩みを抱えているのが実状です。

そこでSQiPでは、2010年にソフトウェア品質保証部門の長による「品質保証部長の会」を創設し、以来、講演やグループ討論を通して、品質保証戦略の立案や組織体制の構築、品質保証業務の改善、効果的な品質保証活動の事例の作成、開発現場への普及推進などについて議論し技術交流、情報交換しています。また、活動の成果はSQiPシンポジウムや成果発表会にて発表しています。



▲期初のキックオフの様子

詳細はこちら>>><http://juse-sqip.jp/bucho/index/>

ソフトウェア品質保証責任者の会（大阪）

～組織視点で考えるソフトウェア品質保証～

「ソフトウェアの品質保証活動の全体像を明らかにし、ソフトウェア品質保証戦略の立案や管理の手法を確立し、具体的に適用する際の助けとなる事例を蓄積する。」ことを目的に2011年から活動を開始しました。

— 特 徴 —

- ◆ すでに成果をあげている「ソフトウェア品質保証部長の会」は東京開催のため、関西からの参加者の移動の負担を軽減するため大阪で実施するものです。
- ◆ 会の名称にある“部長を“責任者”とし、門戸を広く募集します（部長・課長・リーダーなど職制呼称は各社異なるため）。

— 参加者のメリット —

- ◆ 品質保証活動に関する部門長レベルの技術交流や情報交換ができます。
- ◆ 社外のネットワーク作りができます。
- ◆ 豪華な講師陣による講演も予定されています。

詳細はこちら>>><http://juse-sqip.jp/sekininsya/>

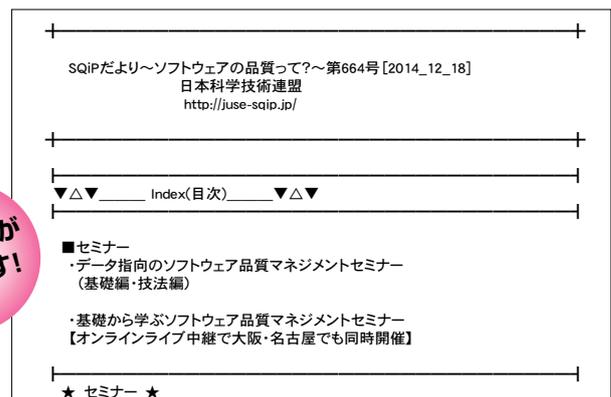
SQIPメールニュース（登録無料）

<http://http://juse-sqip.jp/mailnews/>

ご希望の方は上記Webから申込みください。

- ソフトウェア品質の最新動向
 - セミナー・シンポジウム情報
 - 他社の動向
 - コミュニティ情報
- など有益情報が満載！

最新情報が
満載です！



★ セミナー ★

SQIPの情報発信

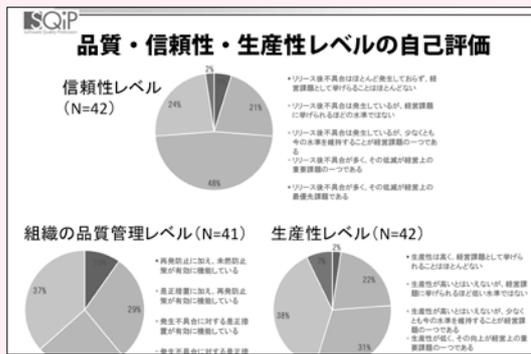
—SQIPでは、様々な情報をポータルサイトを基点に発信しています—

ソフトウェア品質実態調査 <http://juse-sqip.jp/survey/index.html>

ソフトウェア品質に関する実態と変化を把握するために、定期的に「ソフトウェア品質実態調査」を実施しています。定点、定時点観測によって見えてくるものがあります。



トップページ



実態調査ページの例

SQIPライブラリー <http://www.juse-sqip.jp/library/>

SQIPの研究会やシンポジウムなどの活動において、得ることのできた論文等の成果を一般公開しています。「SQUBOK分類検索」、「フリーワード検索」で自在に検索できます。ソフトウェア品質管理活動のヒントになること間違いなし！SQIPの財産ここにあり！



トップページ



「SQUBOK分類検索」

SQIPセミナーレポートページ <http://www.juse-sqip.jp/wp3/report/>

SQIPで開催しているセミナーのモニターを公募し、モニターにセミナーの概要と感想をまとめていただきました。セミナーに参加いただけなかった方でも、セミナー内容がバッチリわかるコーナーです。



トップページ

「データ指向のソフトウェア品質マネジメントセミナー」のレポート(一部抜粋)

(1) メトリクスの基本
 [読者から学ぶこと]
 ・どのタイミングで欠陥を識別・測定しているのか、定義するのは難しいこと
 ・欠陥検出の信頼性を高めるための欠陥の混入と除去のアクティビティ定義
 ・信頼性の評価は、信頼性欠陥に着目すること
 ・発生性欠陥は保守性・対応する欠陥であること
 ・コードインスペクションの指摘の約70%は発生性欠陥であること
 ・メトリクスの必要性
 ・信頼(Soft. Quality, Metric)手法に基づくフレームワークを使用したメトリクス定義
 ・メトリクスの取り組みで忘れてはいけない基本姿勢
 ・ファンクションポイント図による信頼見積り
 (感想)
 メトリクスについて方針もなくデータを集めるのではなく、QM手法に基づき、何のために測定するのか、前提となるモデルは何か、結果をどう解釈するかなどを明確にした上でメトリクスを定義する必要性を理解した。
 また、欠陥を測定するたがいは、欠陥の混入と除去のアクティビティを明確にし、どのタイミングで欠陥を識別/測定するのかを定義する必要性を理解した。

(2) ソースコードに関するメトリクス (信頼、複雑性、品質評価への応用)
 [読者から学ぶこと]
 ・プロダクトやプロセスのメトリクスの関連性
 ・コード行毎の測定レベルの必要性
 ・プログラムの信頼の測定実務
 ・ファンクションポイントの信頼修正係数
 ・再利用、非手続き型言語、要求仕様や設計仕様へのLOCの応用
 ・ソースコードの複雑性は欠陥や生産性低下の原因となること
 ・複雑性の代表的なメトリクスであるサイコロマッチ複雑度
 (感想)

社内セミナー・講演会・実践研修のご案内

～“人材育成”のお手伝いをします！～

日科技連が開催している定例セミナーの内容を社内セミナーとしてご提供します。また、お客様からのご要望に応じて、长年築き上げてきた管理技術教育の実績・ノウハウをベースに、定例セミナーの内容を組み替えてカスタマイズし、より一層効果が高められる教育内容をご提供します。

組織や職場の様々な問題・課題解決、人材育成、現場力強化にお役立てください。

社内セミナー

本ガイドに掲載の定例セミナーの他、ご要望(ねらい・目的)に応じてカスタマイズした様々なスタイル・内容の社内セミナーを企画・実施します。

- ①定例セミナーの内容を組み替えた独自のオリジナルな教育内容で実施できます！
- ②開催日程を御社のご希望に合わせて実施できるため、多数の社員を効率的・効果的に教育することが可能です！
- ③効率的実施により、時間的・経費的な教育コストを低減することが可能です！
- ④問題の共通認識や、今後の取組み方や情報を共有化でき、セミナー後はスムーズに自社で抱える問題・課題を解決することができます！

講演会

社内の品質管理大会・改善発表会・各種イベント等、定例行事での講演会に講演者を派遣して実施します。

実践研修

御社の職場の問題・課題の発見、真の原因追究、業務の効率化等を経験豊富な専門講師を派遣して実施します。

お問合せ先

ソフトウェア品質をはじめ、品質管理全般、品質管理手法、QCサークル、信頼性、多変量解析、実験計画など
業務支援部 研修開発課 TEL: 03-5378-1225 FAX: 03-5378-1227 E-mail: jusekensyu@juse.or.jp

社内セミナー等に関するご相談、ご質問、お見積もりのご依頼など、お気軽にお問合わせください。
詳細案内、「問い合わせ用紙」はこちらから>>><http://www.juse.or.jp/btrip/index.html>

日科技連賛助会員 入会のおすすめ

★本セミナーガイド掲載の事業を会員料金でご参加いただけます★

賛助会員制度のご案内

日科技連では、企業・組織の品質経営の充実のために、教育・研修を中心とした事業を積極的に展開しております。賛助会員にご入会いただくと、セミナー等の事業に会員価格で参加できる他、以下の特典があります。

■主な会員特典

- セミナー等各種事業へ会員価格にてご参加いただけます
- セミナーを年間予約でき、計画的な人材教育が実現できます
- Web ジャーナル『クオリティマネジメント』を1ユーザー無料で閲覧できます。
- 各事業のご案内、最新情報を適宜お届けします
- 最新情報満載の機関紙「日科技連ニュース」をお届けします
- 「品質経営トップマネジメント大会」(11月)へ無料でご招待します
- ご要望に応じて社内セミナーの企画・運営などをサポートします

賛助会員へのご入会をおすすめいたします！

■賛助会員・会費

- * 入会金ならびに年会費は消費税の対象外となります。
- * 会計事業年度は、4月から翌年3月までです。

- 入会金 10,000 円 ● 年会費 50,000 円/1口



品質経営トップマネジメント大会



Webジャーナル「クオリティマネジメント」

入会のお申し込み・お問合せ先

一般財団法人日本科学技術連盟 企画広報室
〒163-0704 東京都新宿区西新宿2-7-1 小田急第一生命ビル4F
フリーダイヤル 0120-207-560 (受付時間: 月～金 9:00～17:00)
FAX: 03-5990-5846 E-mail: jusepr@juse.or.jp

お申込みのご案内

■所定の「参加申込書」を利用する

参加申込書に必要事項をご記入の上、下記のお申込み先宛にFAXまたは郵送でお申込みください。

■ホームページ・Eメールで申し込む

●日科技連のホームページから申し込む <http://www.juse.or.jp/>

ホームページにアクセスして「セミナー申込」を選択してください。ホームページ上に掲載されていないセミナー（臨時セミナー、特別セミナー等）は、お申込みができませんことがあります。その場合はEメールでお申込みください。

●Eメールで申し込む regist@juse.or.jp

下記の①～⑥の項目を明記の上、上記Eメールアドレスにお申込みください。

- ①コース名「第〇回××××コース」、②開催日「〇〇月〇〇日」、③参加者名（ふりがな）、
- ④会社名、所属部署、役職、⑤ご連絡先の所在地、電話、FAX、Eメールアドレス
- ⑥連絡担当がおられる場合は、その方の氏名、所属、役職、連絡先（所在地、電話、FAX、Eメールアドレス）

■申込み受付から受講まで

上記のいずれかの方法でお申込みをいただきましたら、開催の約1ヵ月～3週間前に連絡先の担当者様宛に「開催のご案内」「参加券・請求書」等の書類を郵送いたします。お支払いについての詳細は、請求書に記載してありますが、原則として請求書発行後2ヵ月以内に指定の銀行口座またはゆうちょ銀行振替口座にお振込みください。

■キャンセルの取扱いとお願い

セミナー・研究会等にお申込み後、ご本人の都合が悪くなった場合には、原則として代理の方のご参加をお願いします。また、止むを得ない事由により、お客様の都合でキャンセルされる場合には、セミナー受付担当までFAXまたはEメールにて事前にご連絡をお願いします。その際、ご連絡の日により、次のキャンセル料をご負担いただきます。 ※〇営業日前とは、土日祝祭日・日科技連休業日を除いた日数のことです。

【キャンセル料】 セミナー・研究会等の開催日の7営業日前～2営業日前のキャンセル——参加費の20%
 セミナー・研究会等の開催日の1営業日前～当日（開始時間前まで）のキャンセル——参加費の50%
 事前のご連絡がなかった場合——参加費の100%

■セミナーの振替受講について

お申込みいただきましたセミナーに、受講生の方が参加できず、また代理の方がいない場合は、年度内に開催される同じセミナーに「振替受講」ができます（複数回開催するセミナーのみ）。「振替受講」は、1回は無料ですが、2回目以降変更される場合には、通常の参加費に加え、参加費の10%を振替受講手数料として申し受けます。

※振替受講を希望される場合には、必ずセミナー開催日の7営業日前17時までに、セミナー受付担当に電話、EメールまたはFAXにてご連絡ください。

■お申込み先

一般財団法人日本科学技術連盟 企画広報室 セミナー受付担当
 〒163-0704 東京都新宿区西新宿2-7-1 小田急第一生命ビル4F
 FAX 03-3344-3022 TEL 03-5990-5849 E-mail : regist@juse.or.jp

2015年度

一般コース参加申込書

●お申込み先：日科技連 セミナー受付担当 FAX 03-3344-3022

コース名(略称可)	回数	開講日	開催地
	第 回	月 日	

※コース名、コードNo.、回数、開講日、開催地の記入漏れがないようにお願いします。

事務局使用欄	参加者名	所属事業所・部課・役職	所在地(郵便番号・住所)	電話番号	
参加者			〒		
			〒		
連絡先	会社名		事業所		
	所属・役職		担当者		
	所在地	〒	電話	FAX	
			E-mail		
参加費	<input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 会員	円 × 名 =	円	賛助会員番号	
備考欄					

※ご記入いただきました企業・組織および個人情報に関しましては、参加申込受付処理ならびに日科技連からの事業情報のご送付のために使用させていただきます。

ソフトウェア品質に関する最新情報満載の下記URLを今すぐ

(お気に入り、ブックマーク等に是非追加して下さい)

<http://www.juse-sqip.jp/>

SQiPポータルサイト



SQiP Software Quality Profession

品質にしっかりと取り組めば、組織は賢く、強く、幸せになれる!

SQiPとは、

実践的で実証的なソフトウェア品質技術・施策の研究・普及を目的として、
日本科学技術連盟の下に設置されたソフトウェア品質向上のための推進組織です。
1980年にその前身の活動を開始し、
2007年よりSQiP (Software Quality Profession) へと名称を変更しました。
SQiPは、「ソフトウェア品質を良くしたい」という思いを共有する方なら、
誰でも参加できるオープンな場です。



SQiP委員長
野中 誠氏 (東洋大学)

SQiPのミッション

- ソフトウェア技術職を自ら誇れる職業として位置づけ、
- 実践的で実証的なソフトウェア品質技術・施策を体系化し、
- これを普及させることにより、
- 日本の、ひいては世界のソフトウェア産業の健全な発展に寄与し、
- 品質の良いソフトウェアによってもたらされる安心・安全な社会の実現に貢献します。

SQiPの活動方針

- ソフトウェア品質の重要性を訴求
- 実践的で実証的なソフトウェア品質技術・施策の研究・体系化と普及推進
- 日本のソフトウェア産業の健全な発展に貢献
- グローバルな視野での活動、国際協力の推進
- 新しい課題へのチャレンジ

●お問合せ先●

一般財団法人 日本科学技術連盟

教育推進部 第二課 SQiP担当

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1

TEL: 03-5378-9813 FAX: 03-5378-9842

E-mail : sqip@juse.or.jp <http://www.juse-sqip.jp/>

2015.1.4000